

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年1月31日(2008.1.31)

【公表番号】特表2007-517038(P2007-517038A)

【公表日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【年通号数】公開・登録公報2007-024

【出願番号】特願2006-547319(P2006-547319)

【国際特許分類】

A 6 1 K 9/30 (2006.01)

A 6 1 K 47/18 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/522 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 37/08 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 9/30

A 6 1 K 47/18

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/522

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 37/08

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 25/24

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月6日(2007.12.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

固形投薬形態であって、以下：

(a) 酸に感受性である薬学的に活性な成分、酸に感受性である賦形剤、またはその両方を含有する、コア；

(b) 該コア上のサブコーティングであって、酸性官能基と反応する物質を含有する、サブコーティング；および

(c) 該サブコーティングを覆う、酸性官能基含有腸溶コーティング、を含む、固形投薬形態。

【請求項 2】

固形投薬形態であって、以下：

(a) 酸に感受性である薬学的に活性な成分を含有するコアであって、該成分は、アミノ基を有する、コア；

(b) 該コア上のサブコーティングであって、 - アミノ酸を含有する、サブコーティング；および

(c) 該サブコーティングを覆う腸溶コーティング内の、酸性官能基含有成分、

を含む、固形投薬形態。

【請求項 3】

固形投薬形態であって、以下：

(a) 酸に感受性である薬学的に活性な成分を含有するコアであって、該成分は、アミノ基を有する、コア；

(b) 該コア上のサブコーティングであって、グリシンを含有する、サブコーティング；および

(c) 該サブコーティングを覆う腸溶コーティングであって、酸性官能基含有成分を含有する、腸溶コーティング、

を含む、固形投薬形態。

【請求項 4】

前記薬学的に活性な成分が、アミノ基を有する、請求項 1 に記載の固形投薬形態。

【請求項 5】

前記酸性官能基と反応する物質が、アミノ酸を含む、請求項 1 に記載の固形投薬形態。

【請求項 6】

前記酸性官能基と反応する物質が、 - アミノ酸を含む、請求項 1 に記載の固形投薬形態。

【請求項 7】

前記酸性官能基と反応する物質が、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、スレオニン、メチオニン、システイン、アスパラギン酸、アスパラギン、グルタミン酸、グルタミン、アルギニン、リジン、ヒスチジン、フェニルアラニン、チロシン、トリプトファン、およびプロリンから選択される、請求項 1 または 2 に記載の固形投薬形態。

【請求項 8】

前記酸性官能基と反応する物質が、前記投薬形態の重量の約 0 . 1 % ~ 約 1 2 % を占める、請求項 1 または 2 に記載の固形投薬形態。

【請求項 9】

前記酸性官能基と反応する物質が、前記投薬形態の重量の約 0 . 5 % ~ 約 9 % を占める、請求項 1 または 2 に記載の固形投薬形態。

【請求項 10】

前記酸性官能基と反応する物質が、前記投薬形態の重量の約 0 . 7 % ~ 約 7 % を占める、請求項 1 または 2 に記載の固形投薬形態。

【請求項 11】

前記酸に感受性である薬学的に活性な成分が、抗ヒスタミン薬、抗感染薬、アドレナリン作用性アンタゴニスト、またはキサンチンを含む、請求項 4 に記載の固形投薬形態。

【請求項 12】

前記酸に感受性である薬学的に活性な成分が、抗うつ薬を含む、請求項 3 または 4 に記載の固形投薬形態。

【請求項 13】

前記酸に感受性である薬学的に活性な成分が、ベンゾイミダゾールプロトンポンプインヒビターを含む、請求項 3 または 4 に記載の固形投薬形態。

【請求項 14】

前記 アミノ酸 と前記酸性官能基含有成分との反応生成物が、水溶性である、請求項 2 に記載の固形投薬形態。